



優勝は石川教員チーム

13連覇をかけて挑んだ昨年の大会では、まさかの一回戦敗退となった石川教員チーム。今回は、選手全員がその悔しさを胸に戦ってきました。今大会は安定した力を発揮し、二年ぶりの栄冠に輝きました。主将の宮西美保選手は、「このチームになって初めての大会で優勝できて、本当にうれしいです。このチームは、国体候補選手が私も含め3人います。代表になって来年もまた笠岡に来たいです。」とよろこびの声を聞かせてくれました。

たった8人のチームを支えた頼もしい声援

決勝戦で惜しくも敗れた熊本女子教員チームはたった8人の選手団。このチームには、頼もしい応援団がいました。競技補助員として参加した玉島高校女子バスケットボール部です。夏の合宿で訪れる熊本で指導してくださる熊本教員チームの西村香織先生に「選手もこの声援に、全員が引き締めて頑張れました。」と語っていました。

大会を終えて

(国体推進室より)

国体リハーサル大会は、成功のうちに終わることができました。大会にご協力くださった係員や補助員、市民ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

いよいよ来年は、晴れの国おかやま国体の開催です。今回のリハーサル大会同様、多くの皆さんのご協力なくして、国体の成功はありません。今回は参加できなかったという人も、ぜひ来年の国体には、参加してみてください。民泊花いっぱい運動、さらには大会運営への参加など、さまざまなかたちでの参加をお待ちしています。

各地区民泊協力会では、会長や役員の皆さんを中心に、調理班や美化班、歓迎班などの会員の確保・拡充に努められています。また、実行委員会では、改めて市民ボランティアの募集を行う予定としてあります。

今後も、「みんなが主役 笑顔のかさおか」目指して、一緒に頑張りましょう。

70年前の思い出を

大会最終日、真剣に試合を見つめる女性がいきました。小寺聡子さん、85歳（今立）。70年前の女学校時代、バスケットボールをしていたという小寺さんは、この大会のことを知って、会場に駆けつけました。感想を伺ってみると「試合を見るのは久しぶり」

と笑いながら話してくださいました。

「私がやっていた頃とずいぶん違いますね。昔は屋外でやっていましたよ。こうして試合を見てみると、あの頃の苦しかったことや楽しかったことが思い出されて本当に懐かしいです。来年の国体もぜひ見に来たいと思います。」



今回使用した写真には、7人の市民協力員の皆さんが撮影したのものも含まれています。ありがとうございました。